

平成27年度第5回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会
福祉サービス部会会議録

日 時 平成28年 1月28日（木）午後2時から午後3時まで

場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出 席 松村幸江部会長、山根清孝副部会長、星野暁洋部会員、
櫻井朱実部会員、梅田和男部会員、山澤光史部会員、
入野美弥子部会員、平野明美部会員、
伊藤英史部会員（鎌ヶ谷市障がい福祉課主査）

関係者 長田洋子氏（田辺佳子部会員代理）

欠 席 飯高優子部会員、佐藤弘江部会員、小宮裕子部会員、田辺佳子部会員

事務局（障がい福祉課） 齊藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子庶務係長、
高橋亜也子主事
（もくせい園） 三浦幸嗣氏、花田聡子氏

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・式次第
- ・平成27年度福祉サービス部会出欠名簿
- ・福祉サービス部会から自立支援協議会への要望 ※1
- ・福祉サービス部会から自立支援協議会に要望する意見についてのアンケート結果（事前配布） ※2
- ・ボランティア活動スキルアップ講座開催のご案内（事前配布） ※3

1 挨拶

事務局より、欠席及び代理出席の方の報告があった。また、本日の会議は、定足数である過半数を満たしていること及び傍聴者は0名であることを報告した。

2 議題

(1) 福祉サービス部会から自立支援協議会に要望する意見についてのアンケート結果説明

事務局 今年度、福祉サービス部会は、障がいをもつ当事者のニーズを再検証することをテーマに、アンケートを実施し、送迎に関するニーズが多かったため、これを中心に検討してきた。今後、検討結果を自立支援協議会に報告するため、「福祉サービス部会から自立支援協議会に要望する意見についてのアンケート」（添付資料※2）で出された意見を「福祉サービス部会から自立支援協議会への要望」（添付資料※1）にまとめたので、この内容について検討してもらいたい。

部会長 それでは「福祉サービス部会から自立支援協議会への要望」（添付資料※1）について意見を伺いたい。

(部会員からの意見)

- ・利用者にとってメリットのあるサービスを提供することが重要だと思うので事業所同士が連携して、利用者の送迎ができれば良い。相談に来る人も送迎の有無が事業所を選ぶ基準にもなっている。送迎サービスを提供できる事業所が増えれば利用の幅も広がり、利用者にもメリットがある。
- ・移動支援は自立した生活を送るための支援ではないか。職場や学校に行く際に移動支援を使えると良い。事業所同士が連携して送迎を行うのも良いが、事業所が人員を出すことや、時間的に余裕があるかが不安である。今あるサービスの枠が広がると良い。
- ・送迎や事業所内のボランティア養成講座を社会福祉協議会が中心となり開催して欲しい。どのような講座を開催して欲しいのか、どのような人を求めているかを今回要望として報告し、来年度、社会福祉協議会と考えていければ良い。どのようなボランティアが欲しいか、事業所同士も連携をとり考えていければ良い。
- ・話し合った内容がまとまっている。これを要望として自立支援協議会に報告して欲しい。自立支援協議会でもきちんと考えてもらいたい。
- ・今後、定年退職した高齢者が増えてくると思うので、働ける人にはボランティア養成講座に参加してもらい、障がい福祉に携わってもらえたらいい。

- ・記載されている3つは絞れた要望ではないかと思うが、実現となると時間がかかり難しい部分もある。ボランティアの養成は良いと思う。人材が発掘され、意識が高まれば、困っている人の助けにつながる。一方で事業所同士の連携は、事業所の事情があり時間がかかると思う。公的支援や送迎の許可については、松戸市は学校の送迎を認めているので、鎌ヶ谷市も公的支援が認められると良い。
- ・要望をまとめたが実際できるかどうか。実現の可能性はどれくらいか。ボランティアの養成は、社会福祉協議会を中心にとあるがどこまで協力を得られるか。ただ、何もしなければ進まないのが要望をまとめ、それをいかに推し進めていくのが大事になると思う。誰かが主導して引っ張っていかないと、話が進まない可能性もある。
- ・これらの内容について、現場が困っているのは間違いない。実現性は、やってみないと分からないが、事業所同士の連携は、送迎の問題以外（勉強会等）でも進めていければ良いと思う。送迎サービスの実現性は事業所の事情があるため、それを話し合ってもいいのではないか。また、財源の問題はあるが、公的支援の枠組みを広げてもらい、鎌ヶ谷市でも送迎での利用を認めてもらいたい。
- ・送迎サービスを提供する事業所としては、利用者が同じような時間に重なるため多くの介護者を出すのは難しい。別の方法がないか事業所内で話が出ることもある。

事務局 3つの要望をそのまま出すか、実現の可能性の高いものだけに絞り込むか。社会福祉協議会を「ボランティア活動スキルアップ講座開催のご案内」（添付資料※3）を事業所に配布している。このような企画を通じて、送迎が不足している状況を認識してもらい養成できないか。今後、このような講座を実施するようであれば、相談できるのではないか。ただ、漠然と社会福祉協議会に依頼するだけではなく、どのような人が、どのような場面で困っているか、こういうボランティアを養成できないか等、社会福祉協議会の人と一緒に話をしていく必要もあるのかもしれない。まずは、どの要望を出すか決定してもらいたい。

部会長 「福祉サービス部会から自立支援協議会への要望」（添付資料※1）に記載されている要望をそのまま自立支援協議会に報告して良いか。

（部会員からの意見）

- ・社会福祉協議会で、ボランティア養成講座を実施する上でも、事業所側から要望を発信し、どのようなボランティアを必要としているか確認できた方が良いと思う。若い人や、編み物や手芸ができて教えてくれる人、散歩に付き添ってくれる人等の希望を出さないと、わからないのではないか。

部会長 まず、障がいのある方を理解してもらわないと、いきなりボランティアはできないと思う。地域で生活していることを知ってもらい、足りない資源をボランティアに伝えることができれば、送迎の担い手も現れると思う。

事務局 「ボランティア活動スキルアップ講座開催のご案内」(添付資料※3)は、一般市民と施設関係者に配布された。

(部会員からの意見)

- ・ こういう場合のボランティアは、無償か有償か。
- ・ 社会福祉協議会で実施しているものの中に、有償ボランティアはあるのか。また、有償ボランティアとの間を取り持つのは、社会福祉協議会になるのか。年間の実施件数はどのくらいか。

部会長 短い時間の送迎について、会社を定年退職した世代の人をお願いする等のコーディネート、社会福祉協議会にお願いできないか。社会福祉協議会は地域の人材をかなり把握していると思う。

事務局 福祉サービス部会の意見を3月に自立支援協議会で発表した際に、具体性を求められる可能性があるため、ボランティアが必要な部分をもう少し明確にして出してはどうか。

(部会員からの意見)

- ・ 今回は、提言でなく報告で提出するのか。

事務局 最後の自立支援協議会で、部会長が1年間の活動内容を報告する。そこで提言が出る部会もあるし、報告のみの場合もある。部会からの要望や提言を協議会で協議したうえで、了解が得られれば協議会名で文書を出すこともできると思う。

(部会員からの意見)

- ・ 以前実施した、送迎についてのアンケート結果を報告すれば、どのような状況で、どれくらいの数の人が困っているか確認できる。また、ボランティアの育成については、具体的な内容を検討して社会福祉協議会に報告したうえで、社会福祉協議会と共にできることを模索していくこともできる。まずは、困っている人がたくさんいて、送迎サービスが必要だということを発信する必要がある。

部会長 自立支援協議会に報告しても、意見として社会福祉協議会に伝えられないという結果になる可能性もある。

(部会員からの意見)

- ・ 自立支援協議会から、もう少し精査しないと、社会福祉協議会に要望できないとの返答があれば、来年度以降、再度部会で話し合い修正していけば良い。

部会長 事業所同士の連携については、どうか。

(部会員からの意見)

- ・鎌ヶ谷市の中で、他の福祉事業所とのつながりがほとんど無いので、できれば全部の事業所を皆で見学する機会があるとよい。また、就労継続支援 A 型で実施している仕事の相談や、共同受注等で事業所同士の連携を図りたい。
 - ・事業所同士が連携し、福祉フェアでの共同制作や、協力して工賃向上を考えていければ良い。
 - ・事業所で送迎サービスは実施していないが、今後、協議し実施していく方向でいる。連携については、複数の事業所の得意分野を生かして、販売など行えると良い。また、他の事業所を見学することは、虐待防止にもつながると思う。
- 部会長 利用者に対して、どのような対応をとるのがいいのかなど、事業所同士が連携をとり話し合っていきたい。また、違う事業所の見学も行っていきたい。事業所同士の連携のみであれば、自立支援協議会に要望しなくても良いと思うが、連携を通して送迎につながられれば、なお良いと思う。

(部会員からの意見)

- ・利用者に相談支援事業所が関わっていれば、必要に応じてケース会議を開催するので、他の事業所同士が顔を合わせることもある。事業所同士の連携で共同受注の問題に関しては、相談支援事業所は入らない。共同受注であれば、工賃向上を考えていかなければならないので、福祉サービス部会の事業所が別の日に集まり、困っていることについて話し合う機会が持てれば良いと思う。
- ・他市では、福祉サービス事業所の職員を対象にした研修を自立支援協議会主催で開催したことにより、事業所間の連携が広がったときく。福祉サービス部会でも共通の話題について研修会を企画すれば、今後の方向のきっかけになるかも知れない。

部会長 事業所同士の連携で、送迎サービスを行えないかという要望についても自立支援協議会に報告するか。

(部会員からの意見)

- ・事業所同士の連携をとるための研修を、自立支援協議会に開催してもらいたいという要望を報告してはどうか。その要望が取り入れられたら、研修会を開催するために内容を企画していく。送迎についての要望もあるが、まずは、研修内容について話し合えば良いのではないか。
- ・研修開催となれば予算をとる必要があるのではないか。

事務局 誰かを招待するのでなければ、何とかなるのではないか。

(部会員からの意見)

- ・市役所の部屋を借りることはできるのか。
- 事務局 市役所会議室の空き状況を確認しないと分からない。以前、介護保険分野で、介護サービス事業所連絡協議会を立ち上げ、介護サービス事業所が集まり、意見交換をした。情報が事業所に伝わらなかったため、行政が主体となり、

情報を発信した。その後、ケアマネージャーだけの協議会を立ち上げた。それは、2ヶ月に1回くらいで市役所会議室にて開催していた。そのようなことを将来的に目指すとしても、まずは、自立支援協議会で研修会のような場を作っていくのも良いのではないか。

(部会員からの意見)

- ・研修会を開催した時に、どう発展させていきたいか投げかけ、成長させていくことができれば良い。

部会長 事業所同士連携や、顔の見えるような会議を立ち上げてもらいたいという要望を自立支援協議会に挙げていく。

公的支援については、出された意見なので要望として挙げていく。鎌ヶ谷市は、移動支援で、通所や通学の送迎を認めていないが、それを考えてもらえないかという要望を自立支援協議会に挙げていく。

この3つの要望以外に何か意見はあるか。学校に通学している子どもは、親が送迎できない時は、お休みになってしまうのか。

(部会員からの意見)

- ・送迎について、頼める人がいない、頼みたくても受けてくれるところがないという現実がある。それでも、他市は、移動支援のサービスが使えるようになり、保護者の精神的ストレスは大分軽減されたように思う。
- ・他市の保護者で働いている人は、とても助かっていると聞いている。

部会長 この3つの要望でよろしいか。

(意義なし)

以上で本日の議題はすべて終了する。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年2月8日

氏名 松村 幸江 _____

氏名 山根 清孝 _____